

精一杯やってみよう。  
都市でウミガメを守れるか？

## 神戸空港ラグーン・プロジェクト



神戸空港ラグーン内で泳ぐアカウミガメ  
撮影：宮道成彦氏

毎年、夏になるとアカウミガメが瀬戸内海(大阪湾や播磨灘)に入ってきます。豊富な底生動物を食べにくらしいのです。でも、この海はウミガメが生きていくにはあまりに危険。船が多く走り、漁船の網がたくさんあります。この海で見つかるウミガメは、死体の方が多いのです。そこで考えたのは、神戸空港の人工ラグーンで安全に過ごしてもらおうことです。彼らが太平洋に出て行く11月まで、ここで避難してもらおうことになったのです。アカウミガメは絶滅の危機に瀕してます。都市のこうした活動が、少しでもアカウミガメのためになればと思っています。

NPO 日本ウミガメ協議会 <http://www.umigame.org> 072 - 864 - 0335

## ラグーン的环境

神戸空港の人工ラグーン(右)の面積は1.6ha。広さは充分です。水深は最も深いところで4m。これも充分です。しかも、外海とつながっており、魚や貝、甲殻類などの卵や幼生が自由に出入りするため、ウミガメの餌となる動物も豊富にいます。ウミガメを極めて自然に近い状態で保護できます。



## 餌

餌は与えていません。人が餌を与えると、人に慣れてしまい近づいたり、放流したときに餌を食べられなくなることが心配されるからです。人工ラグーン内には貝などが生息しており、それを食べた痕跡も確認されています。いまのところ、それを食べています。左はカメが食べた貝の痕跡。

## 健康診断

毎月、カメを取り上げて、健康状態をチェックしています。甲羅の長さや体重はもちろん、血液検査も行っています。体重は少し減ったカメもいますが、血糖や脂質の量から、健康状態は維持されていると考えられます。上は健康診断のときに子供にカメの説明をしている様子。



## 放流時期

これまでの研究から、水温が20度以上あると、ウミガメは瀬戸内海や大阪湾から出て行かないことがわかっています。そこで、ウミガメを放すのは、水温が低下する11 - 12月にしています。しかも、できるだけ危険を避けるため、紀伊水道まで運んで放します。